

アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№93 Oct 2018



夏の企画展『進め！高知市立動物園』開催！

動物のお医者さん №29 ～骨折治療中のサーバルキヤット～
母ジャガーの子育てを見て感じること

7月から9月

- 7/8、8/12、9/16 裏側探検隊 開催
- 7/15 カブトムシすもう大会 開催
- 7/19～9/4 夏の企画展「進め！高知市立動物園
～お城の動物園から67年～」
- 7/22 足摺海洋館からミニ水族館 来園
- 7/30,31 サマースクール 開催
- 8/8 臨時開園
- 8/9 ジャガー ココ 誕生日会
- 8/10 ニホンカモシカ 1頭 誕生
- 8/26 らんちゅう品評会 開催
- 9/2 ジャガー ルモ 誕生日会
- 9/16 足摺海洋館でミニ動物園 開催
- 9/17 敬老イベント 開催



カブトムシすもう大会



今年の勇者たち



ニホンカモシカの親子

ニアと名づけ
ました



ミニ水族館

今年も足摺海洋館と
交換イベントをおこないました



ミニ動物園

のできごと



サマースクール

小学3年生から6年生が参加してくれました。



祝・敬老の日



敬老の日にはチンパンジーのタローさん、ニッポンツキノワグマのワカさんのお祝いをしました。お芋のケーキをもらった、タローさんは初めて見るケーキをなかなか食わず、お客さんをやきもきさせましたが、ブドウやナシなどのおいしいものをおなか一杯食べました。ワカもイチゴやメロンのケーキをおいしく食べました。そのほかの敬老動物たちにもお祝いのメッセージをいただきました。



夏の企画展

『進め！高知市立動物園』

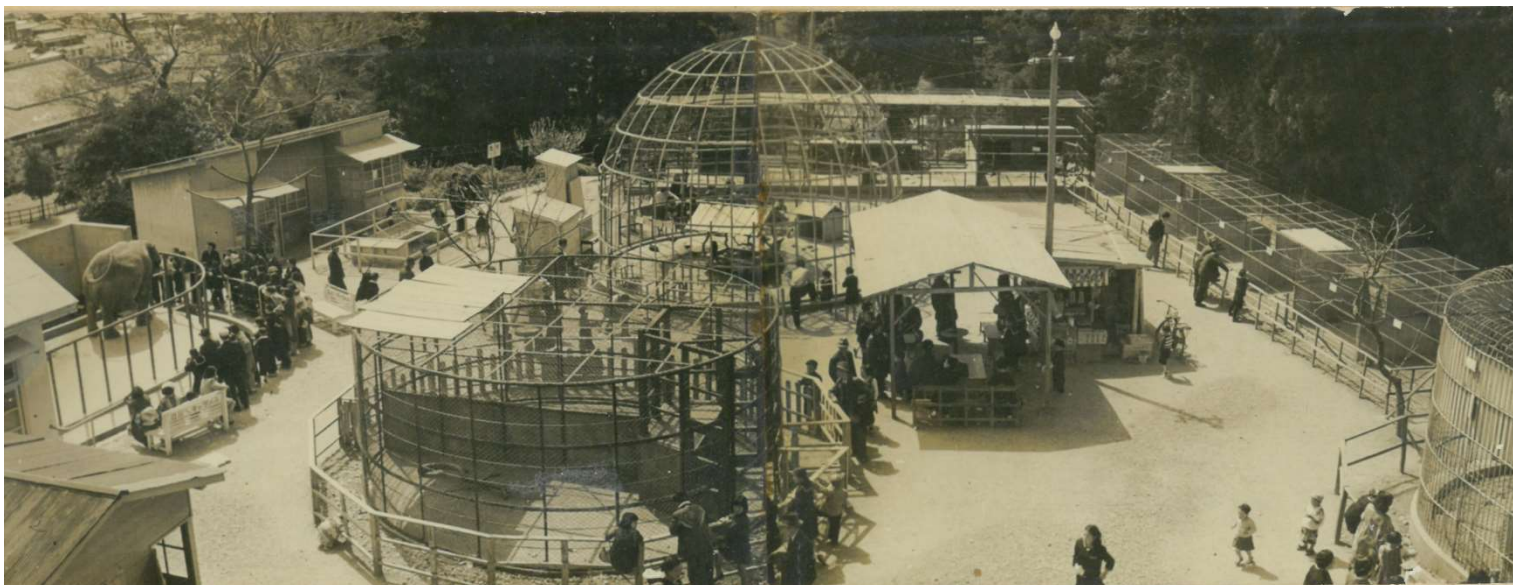
～お城の動物園から67年～開催！

毎夏恒例こうれいの企画展。2018年は、『進め！高知市立動物園～お城の動物園から67年～』と題して7月19日から9月4日まで開催しました。この企画展は開園25周年を記念したものなのですが、それにしても「25」や「わんぱく」といった文字が入っていないことにお気づきでしょうか。

かつて高知城の桃の段おだいどころやしきあと（現御台所屋敷跡）にちいさな動物園がありました。この動物園は「お城の動物園」と呼ばれ、42年6ヶ月もの長きにわたり、市民のみなさんに愛されてきました。実はこの動物園が「わんぱくこうちアニマルランド」の前身なのです。※お城の動物園＝高知市立動物園は1950年3月開園

高知市制100周年記念事業としてわんぱくこうちは1993年4月2日に開園しました。お城の動物園もその際移転し、現在のわんぱくこうちアニマルランドという名称になりました。それから四半世紀の時流れ、お城の動物園が開園してから約68年が過ぎたのです。飼育スタッフの中にもまったくお城の動物園を知らない者や、ほとんど記憶にない者も多くなってきています。お城時代から働いているのは、現在では園長1名になってしまいました。この企画展を担当した私（高知生まれ高知育ち）も、お城の動物園がわんぱくに移ったことをすっかり忘れていました。むしろお城の動物園の記憶自体もうっすらとしてきているくらい…。

25周年ということと、平成最後の夏ということもあり、たまには歴史を振り返る企画展があってもいいのではないかとということで始まった『進め！高知市立動物園』。今回は各種メディアの協力のもと、市民の皆さまから大切なお城の動物園の思い出写真を提供していただき、ミニ写真展も行いました。募集期間が短かったにも関わらず、予想以上の写真が集まりました。提供していただいた写真はどれも皆さまにとって大切な思い出の品で、寄せられたエピソードを拝見すると、高知市立動物園やそこで暮らしていた動物たちが愛されてきたのだということが伝わってきました。中には当園にも写真や映像が残っていない時代のももありました。いまでこそデジタルカメラやスマートフォンの普及で写真を撮ることは身近かつ手軽なものになっていますが、ほんの少し前までは写真を撮ることやカメラを持ってお出かけをする、そのこと自体が「ハレの日」でした。私も子供時代は写真を撮ってもらうことや現像されてきた写真を見ることが、とてもワクワクと楽しみだったことを思い出しました。



高知市立動物園

企画展では68年の間に起きた出来事を年表形式にまとめてご紹介をしていました。足を運んでくださった方と少しお話させていただく機会がありましたが、「もうすっかり忘れてしまっていたけど、写真や記事を見てその時のことが鮮明に思い出せた」といった声や、「わんぱく一くになってから一度も来たことがなかったけれど、あの時見たチンパンジーのタローさんや鳥（シュバシコウのダイ）が今も元気に暮らしているのを知れて、懐かしい友達に会ったような気分」といった声を聞かせてもらえました。そして改めてアニマルランドを知るきっかけになって良かったという嬉しい声も聞かせてもらえ、このタイミングで企画展を開催できて本当に良かったと思いました。

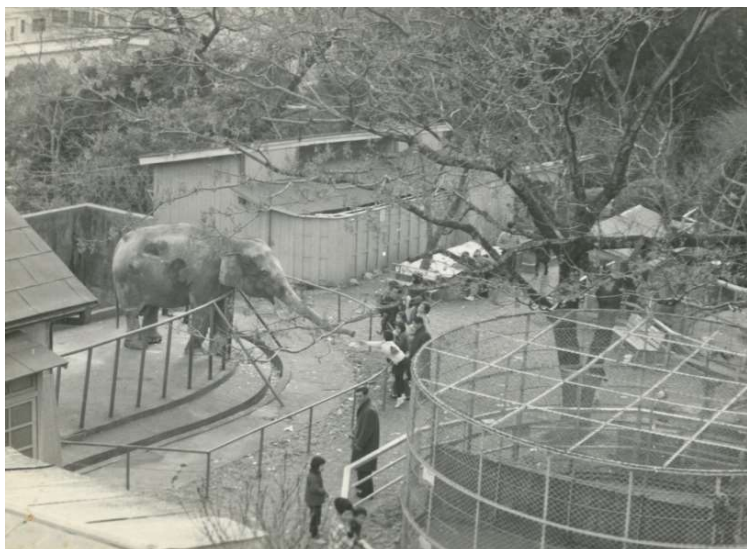
年表では可能な限り、個体名の分かる動物たちの来園・誕生・死亡日を掲載しました。個体名がわかるようになっていたので、あの時見たあの動物の名前を数十年超しに今初めて知ることができて嬉しい、良い思い出になったという声も頂戴し、がんばって調べた甲斐があったなあ、と思うと同時に、動物たちが皆さんの思い出に深く残っているということを改めて知ることができました。

特にお城の動物園＝ゾウというふうに記憶されている方が非常に多いのではないかと思います。今では高知県内でゾウを見られる施設はありませんが、お城の動物園時代には、3頭のゾウが暮らしていました。「南海子（なみこ）」、「ターコ」、「チャム」と名付けられた3頭のゾウは、お城の動物園の象徴的存在です。皆さまから寄せられた写真のほとんどに、ゾウが写っていました。資料を調べるにあたって、園が保管している写真アルバムや新聞記事のスクラップにも、本当にたくさんのゾウの話題が登場しています。すべてが楽しい話題ではありませんが、それら全部をひっくるめて、現在のアニマルランドへと続く高知市立動物園の歩んできた歴史なのです。南海子・ターコ・チャムやその他多くの動物たちが眠る墓地への墓参りも、飼育スタッフは今も毎年欠かさず行っております。今年も10月中旬に行く予定をしています。（墓地は園内にはありませんが、動物慰霊碑があります）

お城の動物園から現在もここで暮らしている、いわばビンブレジェンドである「タロー」「ダイ」や長寿動物たちの紹介、もう少しで100号を迎えるアニマルランドニュースの創刊号も掲示しておりました。当時はまだパソコンがあまり普及していなかったこともあり、編集長全面手書きで、イラストもたくさん掲載されており、手作り感満載で見ているととても楽しかったです。（またいつかどこかでご紹介できればいいなと思っていますのでお楽しみに！）

『進め！』と題したように、過去だけではなく、アニマルランドが現在そして未来へとつなげる活動としてトサシズサンショウウオの保護活動の紹介や、それまで同種とされていたオオイタサンショウウオとの比較ができるよう並べての展示も行いました。新種認定されて初の比較展示となりました。トサシズサンショウウオについては常設展示しておりますので、ぜひ展示場でご覧になってください。

今回の企画展は25周年記念として開催しましたが、続く30周年、50周年へと向けて高知市立動物園＝わんぱくこうちアニマルランドは一步一步前へと進んでいきます。人と動物との架け橋となる動物園となるよう、そして「いのちの博物館」としての役目を果たせるようスタッフ一同精進していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。何度でも、遊びに来て下さい！（山崎由希）



高知市立動物園



わんぱくこうちオープン

入院中のシャア

動物のお医者さん

No.29

～骨折治療中のサーバルキヤット～

2018年3月5日、飼育員からサーバルキヤット（オス、13歳、名前シャア）が右前あしをあげているとの連絡がありました。獣医師がみにいくと、はれた右前あしをまったく地面につけず、レントゲン検査にて右前あしの骨折がわかりました。すぐに手術をしたいところですが、サーバルキヤットは体重17kgにもおよぶ中型のネコ科動物です。経験や設備の不十分な動物園の病院だけでは、この大きさの動物の骨折手術はむずかしいと思われました。そのためまずは手術の用意に走り回りました。手術の方式、手術の器具、手術室、麻酔や術後の管理など、考えることはたくさんです。そのような手術の経験がたくさんある獣医師の先生方にも相談しました。手術がうまくいくことを一番に考え、手術のメインは専門の先生にお願いし、必要な器具もかしていただけることとなりました。私たち動物園獣医師は麻酔や手術の助手、術後の管理を行いました。手術は折れた骨に金属のプレートをあてて固定するという方法で、ぶじに成功しました。

手術からバトンをひきついで、その後の管理が結果を左右するとも言われています。問題はサーバルキヤットはペットとちがいで、かんたんに人がさわることのできない動物ということです。なにか起きてからでは麻酔をかけないといけないため、あらゆるリスクを先にふせぐことが大切です。シャアには包帯やギプスをつけることもできません。実は手術前にギプスを一度ためしましたが、いやがってすぐに外してしまったのです。なめて傷口がひらいたり、入院室であばれてもう一度骨折したら…と心配はつきませんでした。まわりを静かにするのはもちろんのこと、入院室のオリもあしをはさんだりしないようすべておおいました。また薬でおなかを下したり食欲がおちることがあり、そのつど薬やエサメニューを変えました。入院室の天井にカメラをとりつけて、シャアの様子をこまかくチェックし、おちつきがないときは気をしずめる薬を使ったり、ストレス行動に対して青草やリラックス効果のあるスプレーもためしました。寒さ・暑さなども気にして、入院生活を少しでも気持ちよくすごしてもらおうと思いました。骨はプレートがしっかり固定されていれば少しずつ、すきまがうまっています。その様子を見るため、1か月に1回、レントゲン検査を行っています。

2018年9月の時点で骨はうまくくっつきそうです。いつも目があうとシャーッと怒られてしまいますが、シャアが元気でいてくれることが何よりうれしいです。現在はリハビリの段階に入っているので、これからもいっしょにがんばろうと思います。

(井上春奈)



骨折時の右前あしのレントゲン写真



手術後の右前あしのレントゲン写真



処置のようす



手術のようす



母ジャガーの子育て を見て感じること

ジャガー連載④

凛々しいハク



高知市の中心部、わんぱくこうちアニマルランドへ大阪からやってきた葉月ココが、はじめて子どもを産みました。ココは大阪市天王寺動物園で生まれ、今年の8月9日の夏、4歳になったばかり。京都市動物園に兄弟の葉月旭がいます。全身ジャガー特有のバラの花のような模様がくっきりと目立ち、これぞまさにジャガーだとお手本になるような美しい個体です。そんな若い彼女が母となり、一体どんな子育てをするのだろうかとお興味津々で日々観察を続けていますが、ジャガー担当者としてではなく、ただのどうぶつ好き人間として冥利に尽きます。あーなんてしあわせな時間♪

ココは毎日「ハク」をかわいがります。この名前はおもな生息地であるブラジル(伯刺西爾)から「伯・ハク」と名づけました。生後2カ月の一般公開時より、わんぱくで愛らしい姿は、私たち動物園で働くゲンバビトはじめ来園者みんなを笑顔にさせてくれています。この秋で生後10か月となり、父ルモをほうふつとさせるオスジャガーへとどんどん変貌しつつある姿は凛々しく人気を博・ハクしています。いつの日か「こいつだれだろう!？」と見違えることを夢見て、子ジャガーの成長にともなう体色の変化や体格を記録しながら撮影するのが、毎日の楽しみとなっています。

ココはとにかく一生懸命で母として、また自分らしく子に対して全力でむかっています。食う・寝る・遊ぶ・・・ずっとハクのことを見守っている姿はいつもキラキラと輝いて見えます。私は一生忘れません。逆子という初産を乗り越え、疲れを癒すことなくすぐ我が子を抱えお乳を飲ませたこと。私たちへは近寄るなどばかりにこちらを激しく威嚇していた強い母になった姿。生後一ヶ月ごろまでの記録写真は、ほとんど怒った表情のココとあどけない表情のハクしか残っていませんよ! (笑)

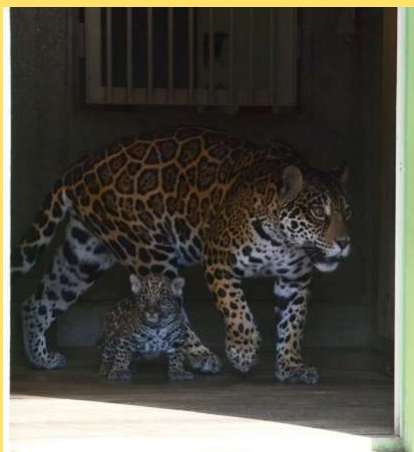
現在、日本国内で飼育管理されるジャガーはわずか14頭と危機的状況であります。全国の動物園がジャガーの保全・繁殖に力を注ぎ、もっと注目していただくためにハクがもう少し立派に成長しジャガーの術を学んだころ、ココには次の使命があります。

最近、ハクが展示場の真ん中にある大きな木に登りはじめています。ジャガー界のてっぺんを狙っているのでしょうか。そろそろ一人立ちが近いかもしれません。今後の動きにご注目ください。

(吉川貴臣)



木登りするハク



はじめてのお散歩



威嚇するココ

あにまるきゃっち☆ №25



スマトラトラ舎の前の顔出看板を使って
写真を撮っている親子をキャッチ☆

左から

横島 ^{りゅういち} 立一くん(3歳)

横島 ^{しのぶ} 慶信さん

高知市からのご来園です。
台風前のくもり空の中、元気な男の子を発見。
お父さんに抱っこをされてニコニコ顔でポーズを
決めてくれました♪

10月から12月のイベントとお知らせ

10月1日から
ふれあい広場再開

10月7日(日)、11月11日(日)、12月23日(日)
14:30～

裏側探検隊 各日先着20名
参加者全員にアニマルランドカードプレゼント♪

10月14日(日)
らんちゅう品評会(土佐らんちゅう愛好会主催)

11月4日(日)
動物愛護のつどい
11:30～ 動物慰霊祭
13:00～15:00 動物クイズラリー
参加賞あり(先着200名さま)少雨決行

日・祝 14:30～
(裏側探検隊がある日曜日は前日の土曜日に変更)
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

12月2日(日) 13:00～14:30

第18回 いきもの講座

パンダ飼育頭数日本一のアドベンチャーワールドから、パンダ飼育員の品川友花さんをお招きしてお話していただきます

先着順で**参加者募集!!**11月10日(土)10:00から
受付開始
参加無料 対象 小学生から大人
園内案内所受付または、電話、ファックス、Eメール、
のいずれかで氏名・年齢・電話番号を記入の上お申し込みください
先着30名が参加できます

12月13日(木)～2月5日(火)

えと展
来年の干支であるイノシシについてご紹介します

動物たちのエサの時間

キツネザル	毎 日 10:00～
リクガメ	毎 日 10:30～
チンパンジー	毎 日 13:30～
フラミンゴ	毎 日 14:00～

※ 動物の体調により中止になる場合があります

表紙「ホンドテン」

2018年10月1日発行
発行・わんぱーくこうちアニマルランド
〒780-8010 高知市棧橋通6-9-1
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp
編集 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 1, 4, 7, 10月の年4回発行
ホームページでも配信中

わんぱーくこうちアニマルランド 検索